



弁護士
森 徹

あれっ?A.R.E! Allez!!

また、新たな年を迎えました。本年もどうか宜しく願い致します。さて、昨年はガザ地区での戦闘激化など世界情勢は混乱を深めました。他方、コロナ禍も5類変更により街に人が戻り、終息の兆しを見せつつあります。広島サミットの成果を梃子に政権の継続的安定を目論んだ岸田政権は、相次ぐ副大臣、政務官の辞任で支持率低下に喘いでいます。適材適所ならぬ「敵」在適所となってしまいました。「軽罪、軽罪、軽罪」などと三唱している場合ではなくなりました。また、昨年は猛暑にも苦しみました。11月に入っても夏日が続き、Xmasに紅葉を愛でるかつかつての週刊誌記事もフェイクではなくリアルなものとなりつつあります。あれっ?と違和感を感じつつある中、「あれ」を実現した阪神タイガース。ファンの方々、日本一おめでとうございます。私はファンではありませんが、当事務所の前身の北村法律

会計事務所の故北村忠彦弁護士は、根っからのトラ愛好者でした。出身弁護士や修習生、事務職員など関わりのあった縁者で「北村会」を作り、その定款に阪神ファンであること的一条項を入れるほどでした。私は、憲法違反だと思いつつも、それを声高に叫ぶような大人気ないことはせず、しっかりと他球団を応援しておりましたが、あれよ、あれよと日本一。忠彦先生もご存命でしたら、さぞお喜びになったことであろうと、38年の月日感慨深く思いました。本来であれば、日本一を祝い、「トラ トラ トラ」と三呼したいところですが、平和憲法を擁する我が国民としては、物騒な国際情勢下、矢面に敵基地攻撃かとの疑念を呼ぶような言動は避け、冒頭表題のような三唱をもって、お祝いに代えさせていただきます。阪神に倣い、地味ながらもしっかりと前進することを密かに願い、願掛けは「ARE」と致しました。成就することを願い、頑張ります。Allez!!



弁護士
後藤 啓

源氏物語

岩波文庫の「源氏物語」を読んでいます。全九冊の内、八冊目の後半「浮舟」の帖を読んでいますので、読了まであと少しです。読み始めた当初は、古語辞典をマメに引いていましたが、途中から気になる言葉だけ辞書で調べようとして、各ページに付けられた注を頼りに、読むことができました。省略が多い文章や、持って回った言葉遣い、短文や漢文などの教養を前提とした表現には、苦勞をさせられますが、当時の貴族の生活や習慣、宗教や人生に対する考え方などを知ることができて、古典の面白さを、少しですが味わうことができました。ただ、光源氏にしろ、薫にしろ、匂宮にしろ、登場人物の男性たちの、恋愛感情に忠実とはいえ、あまりにも身勝手

で自己中心的な考えや行動に、ついて行けないと感じることが数多くありました。当時の貴族は、一夫多妻制で男性中心の社会だったので、このようなことは当たり前で当時の人々は容易に感情移入することができたのか、それとも、当ても批難されるようなストーリーを敢えて作り出して、そこを楽しんでいたのか、不勉強な私には分かりませんが、いずれにせよ、千年の間、読み継がれてきたということは、そこに人を刺激する何かがあったのだらうと思います。教科書にも載っていた古典文学が、このように刺激的で、常識を超えるスケールの大きな物語であると知ることができただけでも、貴重な読書体験だったと思います。



事務局

亀山島(台湾)

5月の台湾旅行は、久しぶりの旅計画で楽しく気持ちが高まりました。が、コロナ禍以前に宿泊していたホテルが閉館していて、宿泊代、食事代なども値上がりしていました。今回の滞在先は台北から高速バスで60分程の宜蘭県の礁溪温泉郷です。高級旅館、スパだけでなく庶民的なお宿もあり、街中では無料の足湯処で、近くのハイキングコースを散策した後の疲れをとることができました。また、海亀の形をしている太平洋上の島の「亀山島」に行きました。廃校になった小学校や民家跡などかつては人が住んでいた名残があります。過疎化により、軍事演習場に指定され無人島になったのですが、今は一日の上陸人数制限をして観光地化されているようです。亀の甲羅部分は401高地と呼ばれ、頂上まで1706段の階段が続いています。上陸申請以外にここも登山許可が必要です。頂上からの眺めは絶景です。洋上からは季節になると、イルカやクジラを観るツアーがあります。火山島で海底温泉が湧き出ているため一部スカイブルーのような海の色にとっても感動しました。



弁護士
西岡 弘之

我が家の新しい家族

最近、家に帰る楽しみが一つ増えました。玄関を開けると、かわいい声で出迎えてくれる我が家の新しい家族。一昨年、娘の強い要望で飼い始めた二羽のセキセイインコです。最初に飼い始めたのは、黄色い顔で緑地に黒のアクセント、背中に黒いVの字があるのが特徴のオバーリンという種類の女の子。ペットショップなどでよく見かけるタイプで、「セキセイインコ」といって真っ先に頭に浮かぶ種類ではないでしょうか。娘はこの子を「キーちゃん」と命名しました。もう一羽は、キーちゃんが独りぼっちではかわいそうだということで、キーちゃんが来た約半年後の娘の誕生日に飼い始めた、黄色い顔にブルーの体の男の子。こちらはバステルカラーレインボーという種類のことです。娘はこちらには「モブちゃん」という名前を付けました。

この子たちは二階の居間に置かれた鳥かごの中に入っているのですが、家のカギを開けると、一階の玄関にまで響き渡る明るく通る声で一生懸命さえずってくれます。疲れて帰ってきた日も、この声を聴くと一気に癒されます。普段はかごに入っていますが、一日二回かごから出します。これを「放鳥」というようですが、この子たちもこのときを楽しみにしているようで、部屋の中のいろいろな場所を探検したり、人の肩に乗ったりしてかわいい仕草を見せてくれます(写真は、休日の放鳥時、私とインコたちとの団らんのコマです。)。娘にねだられて飼い始めたインコたちですが、今では家族全員の人気者となり、我が家には欠かせない存在となりました。



弁護士
北村 聡子

50代を迎えて

50歳になりました。「五十を過ぎて天命を知る」と言いますが、まだまだ自分の人生の使命を悟る境地には達しておらず、相変わらず仕事と子育て(中2男子と小5女子)など目先のことで精一杯の日々です。一方で、身体面の衰えを感じる場面は確実に増えています。例えば、バレエを習う娘から「ブリエ」や「アティテュード」といったバレエの姿勢を教えてもらうことがあるのですが、手取り足取りの指導を受けて何とか美しい姿勢が完成してもそれはほんの一瞬。すぐに腕や脚が疲れてしまい、姿勢をキープできない自分にガッカリしたりしています。ところで、その娘が少し前から「お散歩」好きになりました。夕食後、特に当てもなく他愛もないおしゃべりをしな

がら一緒に自宅周辺を1時間ほどウロウロと歩き回るのが、娘は「お散歩をすると気分がすっきりする」と言っています。また、途中のコンビニでつい私がスイーツを買ってあげてしまうこともあり、それも含めてお楽しみのイベントになっているようです。私にとっては、この「お散歩」は、母娘の大切なコミュニケーションの時間になっているだけでなく、この習慣が始まってから2キロほど勝手に体重が落ちるという嬉しい効果もあり、できるだけ続けていきたいところです。そんな日常を送る50歳の私ですが、自分の天命についてはこれからゆっくりと考えていきたいと思っています。



事務局

「お、も、て、な、し」ゼロのホテル

16/160円台の厳しい中、4年ぶりの海外へ。盛り上がっていた気分は、ホテルの部屋に一步踏み入れた途端萎えました。口コミは5段階中3.7。HPの写真も素敵。ところが、部屋に入ると、了解をとっていた海側じゃない。そして床には蟻はい回り、掃除は途中放棄のまま等々酷い有様。怒りを堪えながら、フロントに何度もクレームしましたが、まともに対処してくれません。結局その日は部屋の交換すら叶わず。一番酷かったのは、支配人に「お詫びに僕が夕飯を奢るよ」と連れていかれた場所が、...何故か朝食のビュッフェ会場。要は残飯処理要員。冷えた朝食の残り物が置かれ、飲み物は水だけ。呆れて食欲すらでない中、「閉店したい」と30分で追い出される始末。翌日は朝から揉めつつも、少しまとまな部屋に移動し、残りの日々は、美しい街並み、壮大な世界遺産、美味しい食事と地ビールを堪能できました。が、宿泊代もキツリとったあのホテルのおもてなしが一番の思い出です。